

「山村振興＝やっぱり『人』かなあ」

長野県下伊那郡泰阜村長 松島貞治

1. 泰阜村の概況

長野県の南端 人口 1900 人の過疎の村 林野率 86 %
高齢化率 38 %

昭和 10 年 5844 人⇒満洲開拓へ（泰阜分村）

平成 12 年 2176 人 平成 17 年 2062 人 平成 22 年 1911 人
（平成 22 年社会増 12 名。自然減 25 名 平成 23 年社会増 11 名
出生 9 名 自然減 37 名）

保育園（平成 22 年統合）0 歳児から年長まで 55 名、

小学校（平成 22 年統合）75 名

中学校（平成 5 年統合）61 名

※65 歳以上人口 平成 14 年をピークに減少⇒高齢化問題なし

※アクセスの悪い村 それでも中心市（飯田市）へ 20～30 分に

2. 泰阜村の課題

少子化

将来学校をどうするか

※一つの自治体に一つに学校でない時代を想定

遊休農地・荒廃地

※もともと山を耕地に⇒人口減少により山に返す

※守るべき所だけ守れば

※戦後の造林地（主にヒノキ）は、熊の被害でほぼ全滅
空家（150 戸程度）

※個人の権利であるが、取り壊しのルールができないか

限界集落

※消えていく集落はあっていい（集落自然死論）

※公共施設などある程度集約化

就労の場

※広域的課題＝隣の飯田市などを中心に

※村の製造業の工場拡張＝村の人が就職するとは限らない

3. これからの泰阜村

（1）第二期人口減少時代

昭和一桁時代が消えていく時代＝高齢社会から卒業
社会保障費が圧迫しない財政
人口バランスが問題に

(2) 30年後に生き残る地域にするために

持続可能なものは

個人の「家」の限界＝家督相続のようなものがあればいいが
それは仕組みであつたり、人間の活動であつたり

企業活動＝興亜エレクトロニクス 多摩川精機エレクトロニクス

※企業は、つくりだす物さえ考えれば、継続できる

新しい公共

社団法人 泰阜村地域振興センター

農協のガソリンスタンド廃止方針を受け、村と農協で負担し

地下タンクを入れ替え、その後を運営。村営バスの運行受託

高齢者協同企業組合（出資組合員による自主運営）

村が高齢者協同住宅（兼交流センター）建設 それを運営

NPO法人 グリーンウッド

小中学生の山村留学 季節ごとのキャンプ

村の自然を活かし自然体験、生活体験を柱に運営

全国的に有名に

NPO法人 ジジ王国

ハードは村で建設。農村レストラン 農家民宿を運営

野菜は、自分で研究した自然農法で

社会福祉法人 やすおか

特別養護老人ホームを運営

※地域振興センター、社会福祉法人泰阜以外は、Iターンの人たち

※村をだめというのは、原住民

これらを支えているのは、やっぱり『人』

いま高齢者集落を支えているのは、「緑のふるさと協力隊」

農業自立の経営を目指し取組むのは、地域おこし協力隊

村の情報発信に取組むのも、地域おこし協力隊 合計5名で

支えている財源は、過疎債ソフト

補助金から補助人へ⇒やっぱり『人』